

岡山市区づくり推進事業助成申込書

(地域活動部門)

平成27年2月2日

岡山市長 大森雅夫 様

フリガナ ヲイノムカシバザンシウイノカ
 団体名 横井のむかし話編集委員会
 所在地 岡山市北区栢谷 1627-2
 連絡先 同上 TEL 294-2994
 フリガナ ニシキジシ
 代表者氏名 西崎繁治

※ 提出した申込書の内容が、岡山市のホームページ上で公開されることに同意します。
 ただし、個人情報に関する部分は除きます。

応募分野	(該当の分野を○で囲んでください。) ア 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり <input checked="" type="radio"/> その他
事業名称	横井のむかし話 第二集の発刊
事業実施区域(小学校区)	横井小学校
事業実施回数	<input checked="" type="radio"/> 新規 継続 回目 (年度から)
事業の目的	※解決をはかりたい地域課題等について記載してください。 新しい住民が増え、横井の歴史や昔話が伝わっていない。横井地区に伝わっている民話や地誌、史誌、史蹟等を学区民、児童に伝えることにより、横井の子供たちが、横井をいそう好きになり、ふるさと横井を愛する人に育ち、また、横井に住む人々が、横井に愛着と誇りを持って下されはと願っている。
事業の必要性	「横井村誌」は郷土研究グループが昭和14年から17年間の長い年月にかたて、文献の研究、実地踏査をもとにかり版印刷で出版された貴重な資料ですが、散逸して、現在、横井小学校だけに一部だけ保存されています。その「横井村誌」を参考資料として平成元年に第一集を発刊しました。それから26年横井小学校創立百周年を迎えて第二集の出版を計画しました。 横井地区は昭和46年ごろから団地の造成がはじまり、農村から商工業ベントタウンの学区へと発展してきました。児童数も1000人近い大規模校となりました。横井に住む人たちの連帯感を深め、地域の人々が協働して、心豊かな地区を創造していくために「横井のむかし話」はささやかですが貢献できると信じています。

事業の内容	<p>「寛文の慶寺」「孝子伝」「方言」「民話」「昔の米作りの苦労」等「横井村誌」に収められている内容を軸に、「マスカットまっりのほしり」等新しい内容も取り入れて、横井地区の昔から現代への時の流れと郷土感を育てるこゝが「できる内容にする。</p>
期待される成果	<p>横井学区に誇りを持ち、郷土愛を育み、学区全体が子どもの健やかな成長を願う連帯感、地区の教育力がいっそう向上することを期待している。</p>
企画などの工夫	<p>民話などを取り上げて親しみが増すように、また、小学校の高学年に読みやすいやさしい文章で書くように留意する。また、横井のむかしを知るこゝを通じて、昔の横井の村人の息吹きを感じられるように編集したい。</p>
事業の情報公開	<p>公民館だより等に編集委員会の活動状況を掲載していただき、定期的に地域組織へ報告する。</p>
次年度以降の予定	<p>学校教育の中で活用することによって児童の反応を確かめながら、また、地域住民の声を聞いて、次集を編集したい。紙芝居にして、低学年の子どもたちにも理解できるよう計画したい。横井学区連合町内会との協議も行っており、支援していただくことになっている。</p>
その他PRしたい点	<p>※小学校区より小規模(単位町内会等)で実施の場合は、広がりについても記入してください。</p>

事業スケジュール

			6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企画会議			企画第1回委員会	企画第2回委員会	企画第3回委員会							
準備会議				第1回編集委員会	第2回編集委員会	第3回編集委員会	第4回編集委員会	第5回編集委員会	第1回「横井のむかし話」活用委員会	第2回「横井のむかし話」活用委員会		
事業執行				横井村誌の分析	むかし話の選定	地域の昔話の掘り起こし・聞き取り作業	原稿作成 編集作業 挿絵作成		横井のむかし話完成	小学校に出向き、編集委員による横井のむかし話読み聞かせ	地域ボランティアによる読み聞かせ。	
反省会					第1回反省会（企画内容について）			第2回反省会（編集について）		第3回反省会（活用方法について）		
監査報告会										決算報告と収支報告書の作成	会計監査	
次年度企画会議											第1回次年度企画会議（成果を地域に広げるために）	第2回次年度企画会議（成果を地域に広げるために）